

大月駅周辺地区都市再生整備計画書

大月市地域整備課

大月駅周辺整備室

平成 19 年 6 月 1 日

市民の皆様へ

大月市長 西室 覚

大月駅周辺地区都市再生整備計画書の公表について

この度、大月駅周辺の交通結節機能の強化を契機にした、安心・安全で快適な生活環境の創出と中心市街地の活性化をまちづくりの目標にした「大月駅周辺地区都市再生整備計画」を策定し、国の承認を得ましたので広く市民の皆様に公表いたします。

本計画は、今年度より大月駅周辺整備事業として平成 23 年度までの 5 ケ年事業として実施されます。

今後、この計画にもとづき逐次事業を進めてまいります。各種事業を円滑に進め、まちづくりの目標に向けて確実な効果を上げるため、行政と地元関係者等からなる「まちづくり推進検討委員会」を設置し、会議の公開等民主的手法のもと事業推進を図ってまいりますので、市民の皆様方のご理解とご協力を改めてお願いいたします。

問い合わせ先

地域整備課 大月駅周辺整備室

22—2111 内線 240

担当 石井・水上

大月駅周辺地区都市再生整備計画の概要(大月駅周辺整備事業)

市町村名	大月市	地区名	大月駅周辺地区
面積	274ha	計画期間	平成19年度～23年度

目標

大目標：交通結節機能の強化を契機にした、安心・安全で快適な生活環境の創出と中心市街地の活性化

目標1：駅南北における交通機能の新設・改善と南北の連絡機能強化 — 「交通結節機能の強化」

目標2：活力ある中心市街地の再生に向けた安全・快適な生活環境の創出 — 「安全で快適な交通基盤の整備」

目標3：自然と歴史を取り込んだ大月の顔となるまちなみ景観の創出 — 「良好な景観形成」

目標設定の根拠

大月駅周辺地区での現況と課題

1. 中心市街地の衰退への対応

大月駅周辺の市街地は、大月市の行政・商業・業務・教育等の中心であるが、近年、既存商店街の空洞化と活力の低下が進んでいる状況にある。

2. JR中央線による南北市街地の分断と狭小な駅前の状況の改善

駅周辺市街地は、JR中央線により南北が分断され、バス・タクシーなどの公共交通の拠点は南口に偏在している。また、南口の駅前広場は極めて狭小なため、安全な交通を妨げているとともに、南北の交流が希薄となっている。

3. 駅北口の大規模な空閑地の有効活用

駅北側の興和コンクリート㈱大月工場の跡地、約33,000㎡は駅近接という立地に加え平坦な土地であることから、北口の開設にあわせた魅力ある市街地形成が求められる。

4. 歩行者等の安全性の確保

駅周辺の道路では、歩道が十分に整備されておらず、駅を利用する歩行者や観光客の安全の確保はもとより、今後、さらなる高齢化社会の到来に向け、交通弱者が安全で快適に利用できる交通基盤施設の確保が急務である。

課題の克服に向けた整備の方向性

大月駅南北地区が連携した新たな都市拠点の整備のため、南北交流軸を整備し、多様なニーズに対応した安全で良好な都市環境の形成を図る

・駅北側の乗降口・連絡通路の設置など交通環境を改善し、駅を中心とした各方面からの歩行導線の確保と南北方向の交流の向上を図ることが必要である。

・駅北側の大規模空閑地の土地利用を促進し、民間活力の導入を図るために土地利用規制を見直す必要がある。

・地区周辺では公園等の身近な公開空地が不足していることから、市民や来街者が滞留できる、ゆとりある空間の整備が必要である。

・駅の交通結節機能の強化のため、バイパスと関連した駅周辺の都市基盤整備の強化を図るとともに、中心市街地としての機能導入を図ることが必要である。

・高齢化が顕著に進行している地区であるため、地区内の道路を交通弱者に対応した安全な歩行空間として早急に整備することが必要である。

目標を定量化する指標

指標と定義	単位	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	基準年度
駅利用者数(乗車人員) (1日あたりの駅利用者を計測)	人/日	交通利便性向上を計測する指標	7,181	H17年度	7,540	H23年度
駅利用者による歩行環境満足度(満足度調査による)	%	交通利便性向上を計測する指標	3.7	H18年度	50.0	H23年度
駅前広場や道路空間を活用した住民参加のイベント等参加者数(計測値)	人/年	活力ある中心市街地の再生を計測する指標	18,600	H17年度	25,000	H23年度

整備計画の策定手法

地域住民や駅利用者、関係機関等の参画のもと、多様なニーズに対応した計画を策定

・都市再生整備計画の策定に当たっては、議会代表、駅利用者、関係行政機関、地元関係者、学識経験者からなる「大月駅周辺整備検討委員会」を組織し、多方面から検討を行い計画を策定した。

・「大月駅周辺整備検討委員会」では、市民や駅利用者からのアンケート調査結果を考慮し計画に反映するとともに、市民のまちづくりへの理解を得るため委員会の一般傍聴や議事録の公開を実施した。

計画区域の整備方針

方針に合致する主要な事業

整備方針1 交通機能の新設・改善と南北の連絡機能強化 ・駅舎を挟む南北市街地にそれぞれ南口及び北口の駅前広場を整備し、大月駅を中心とした交通機能の改善を図る。 ・橋上駅舎と南北自由通路の整備により、駅を中心とした交通機能の改善を図る。	道路事業((仮)大月駅北口線(北口駅前広場)、大月駅前通線(南口駅前広場)等) 地域生活基盤施設(コインパーキング、市営駐車場等) 高次都市施設(南北自由通路) 地域創造支援事業(大月駅駅舎改築事業)
整備方針2 安全・快適な生活環境の向上 ・高齢者などの交通弱者が安全で快適に利用できる交通基盤の整備とバリアフリー化を図る。 ・市民や来街者が交流・滞留できる駅前広場や公園を整備する。	道路事業((仮)大月駅北口線(北口駅前広場)、大月駅前通線(南口駅前広場)等) 地域生活基盤施設(案内板等) 高質空間形成施設(シェルター) 高次都市施設(南北自由通路) 地域創造支援事業(大月駅駅舎改築事業、防犯カメラ、空き店舗対策、登山路の整備等)
整備方針3 大月市の特性を生かした景観形成 ・魅力向上のため、玄関口にふさわしい駅・街路景観の形成を図る。	地域創造支援事業(ファサード(まちなみ景観の統一)整備、空き店舗対策、まちづくり推進検討委員会等)

大月駅周辺整備事業の概要

事業期間	H19～23	事業実施に当たっては、まちづくり交付金の活用を図るとともに、一部JRの負担金等により事業を推進する。また、関連する県道大月停車場線の拡幅整備や富士急行の駅舎改築などは、関係機関等の協力・支援のもと相互に連携を図り、事業を推進していく。
総事業費	約63億円	
事業主体	大月市	

各事業の内容

道路事業	市道(仮)大月駅北口線 L=23m 市道(仮)大月駅北口線(北口駅前広場) A=3,070㎡ 都計道大月駅前通線(南口駅前広場) A=4,010㎡ 市道大月駅前通線 L=105m 市道駒橋栄町線 L=152m 市道(仮)大月駅北口支線 L=263m 市道大月環岡線 L=74m
地域生活基盤施設	コインパーキング 10台 市営駐車場 A=960㎡ 市営駐輪場 100台 案内板(南北駅前広場、登山路)22基 耐震性貯水槽 100トン
高質空間形成施設	大屋根(シェルター) 1基
高次都市施設	南北自由通路 1式
地域創造支援事業	大月駅駅舎改築事業 A=700㎡ 防犯カメラ(南北駅前広場、自由通路) 3箇所 ファサード(まちなみ景観の統一)整備(南口駅前) 踏切安全対策 1箇所 交流拠点整備(まち宿り) 空き店舗対策(ひろさと村) 登山路整備(岩殿山、菊花山) L=1.0km
事業活用調査	駅前ファサード(まちなみ景観の統一)計画策定
まちづくり活動推進事業	まちづくり推進検討委員会

事業推進のための体制づくり

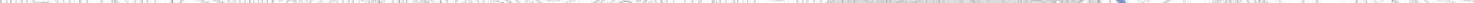
・事業の円滑な推進、目標に向けた確実な効果発現のために、地元関係者や、関係機関、学識経験者等から構成する「まちづくり推進検討委員会」を組織し、設計内容や推進方法について協議していく。

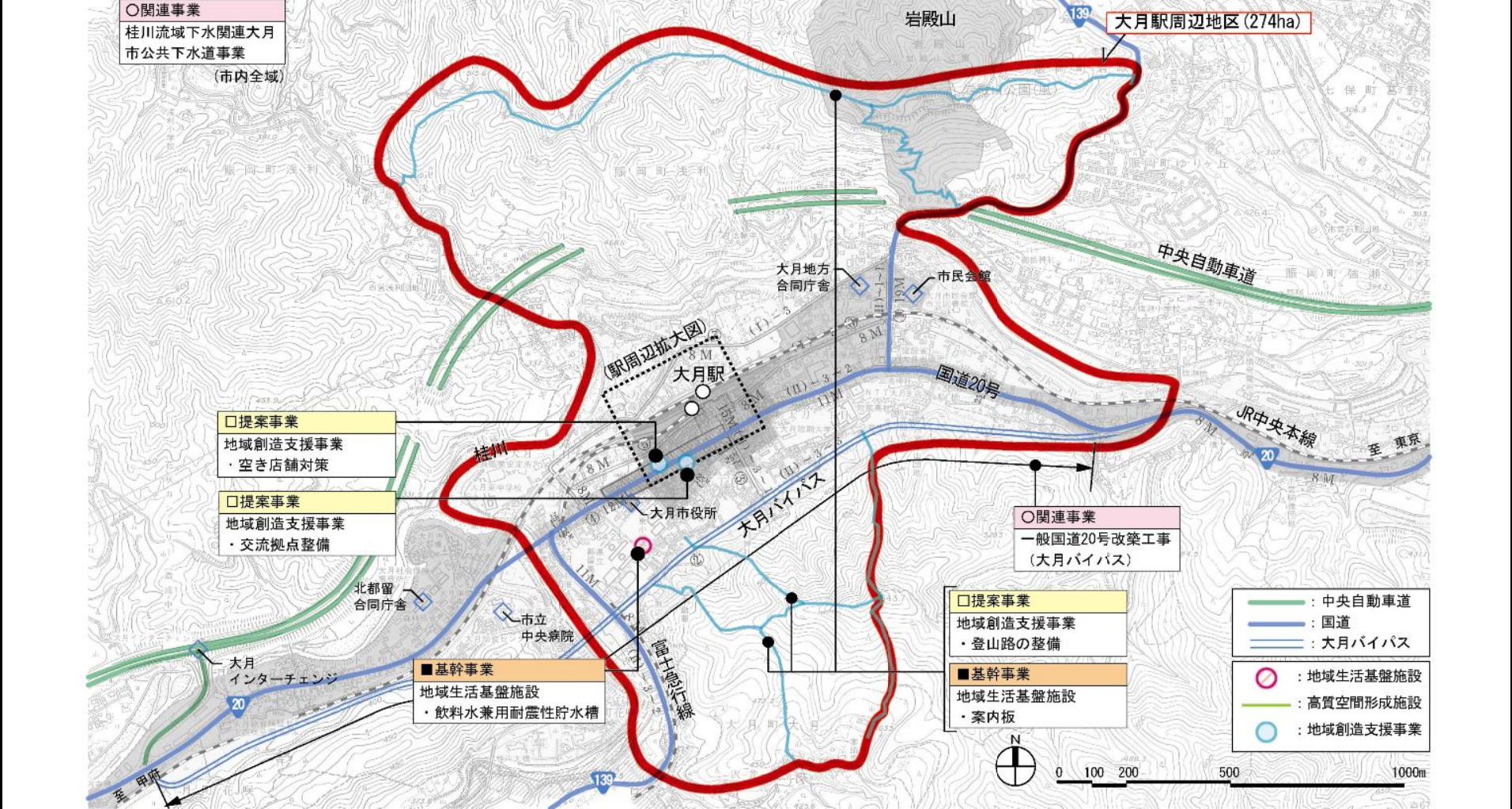
事業終了後の継続的なまちづくり活動

・地元商店街代表者、消費者、行政機関等からなる「まちづくり協議会(仮称)」を設立し、継続的な活動(研究会・講演会等)を行うなど、事業終了後も活力ある中心市街地の形成を目指していく。

大月駅周辺地区(山梨県大月市) 整備方針概要図

目 標	交通結節機能の強化を契機にした、安全・安心で快適な生活環境の創出と中心市街地の活性化	代 表 的 な 指 標	駅利用者数(乗車人員) (人/日)	7,181	(H17年度)	→	7,540	(H23年度)
			歩行環境の満足度 (%)	3.7	(H18年度)	→	50	(H23年度)
			住民参加のイベント等参加者数 (人/年)	18,600	(H17年度)	→	25,000	(H23年度)

【広域図】 





信頼と協働のまちづくり

大月市 地域整備課 大月駅周辺整備室

〒401-8601 大月市大月二丁目 6 番 20 号 TEL:0554-22-2111(代) FAX:0554-23-1216

URL <http://www.city.otsuki.yamanashi.jp/> E-mail ekimae-19206@city.otsuki.lg.jp